

1 学校として目指す授業

「本時の目標の提示」を行い、「見通し」をもたせ、「振り返り」を行う。「OKJ=教えて考えさせる授業」を実践する。

2 生徒の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（3 年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
国語の平均正答率は60%で都より3 P（ポイント）高い。意識調査では、国語が「好き」の肯定率が都より－14.3 P、「できるように教えてくれる」が－12.3 P、「社会で役立つ」に対しては「当てはまる」と答えた率が17.7 P 低く、学習活動への意識が課題。テストの正答数が4 問/1 4 問以下の生徒が約10%おり、個別最適な支援の充実が必要である。 数学の平均正答率は55%で都より2 P 高い。無回答率の高さ、一次関数（都より－8 P）とデータの活用（－8.8 P）に課題。意識調査の教科が「好き」が5.5 P、「分かる」が6.6 P 都より高い。正答数が4 問/1 4 問以下の生徒が約30%おり、基礎・基本の定着が必要。状況把握し整理する課題、ポイントを抑え情報を取捨選択する課題への取組が必要である。	生活習慣においては、毎日の朝食（都より＋6.2 P）、同じ時刻に寝る（都より＋3.3 P）、同じ時刻に起きる（＋2.1 P）と高い。 学習習慣においても、平日の家庭学習の時間（都より＋2.4 P）、土日の勉強時間（都より＋4.2 P）、普段の読書時間（都より＋3.8 P）と、有意に高い。タブレット等の I C T 機器を家庭で勉強に使う割合は都より－5.3 P となっている。 学習熟等に通う生徒の傾向として学校より進んだ内容を教わる生徒が都より＋7.8 P、よくわからない内容を教わっている生徒が都より－4.6 P となっている。 生活・学習習慣は全体として高く、学習が進んでいる生徒ほど学校外で学習を進めていることから、更に学力差が開くと考えられる。

(2) 清瀬市「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（1～3 年生）

授業が「分かる」の肯定率5 科平均は83%、「得意」は54.8%で、その差が28.2 P あることから、授業は分かるが、学習は得意では無いと感じる生徒が多いと考えられる。
意識調査の肯定率で有意に低いものとして、「自分が考えたことを、他の人に伝えようとしている。」（56%）、「理解したことや考えたことを他の人に説明している。」（60%）、「教科書を読むなどして、授業で学習への見通しをもつ。」（63%）、「確実にできるまで、くり返し練習している。」（67%）があげられる。自分の言葉でアウトプットする活動の定着、学習の見通しや準備、粘り強く学習に取り組む姿勢が不十分だと考える。また、「学習を工夫している」（67%）が有意に低く、教科においても「漢字の部首の意味も考えながら覚えている。」（42%）、「問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている。」（53%）などの結果が見られるため、自らの学習を調整するための働きかけ（学習の工夫）を各教科で行う。

(3) 清瀬市「学力調査」の分析（2 年生）

国語：全国の平均正答率と比べると1.8%上回っていた。ただ、設問内容別では「漢字の書き」は全国平均正答率に比べ－7.2%であり、D 層（31.8%）とA 層（4.5%）の差が27.3 P 見られた問題もあった。「文を単語に分ける」では16.6 P 上回っているなど、その他の問題の内容別別正答率は、概ね全国平均を上回っていた。ただし、A 層とD 層との差が大きい設問内容が見られる。特に、「条件に従って、具体的にまとめた文を空欄に書く」では、77.3 P の差が見られた。

数学：本校の平均正解率60.1%は、全国57.7%・市57.4%を上回っている。市を母集団とした学力層でA 層が30.2%いるが、D 層も18.6%と一定数いる。D 層の無回答率が54.5%にのぼる設問が2問あり、思考・判断・表現の観点別平均正答率も41.7%と落ち込む。また、A-D 層の差が80%を超えるのは「円柱の体積が円錐の体積の何倍か」を答える設問であり、この他にもA-D 層の差が70%を超える設問が5問あるなど、A 層とD 層の差が大きくなっている。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
・東京都統一体力テストでは、どの学年も全国平均より下回っている項目が多い。特に立ち幅跳びでは全ての学年男女共に全国平均を下回っている。授業では、目標を提示し、それに対して自分自身の課題を把握・理解することが必要である。さらには、その課題に対してどのような意識をもって取り組むことが必要なのかを、生徒自身が理解することができる授業展開をする必要がある。

3 生徒の学力・学習状況等の課題

・基礎・基本的な内容の定着（A 層とD 層の学力差と二極化への手立て） ・学習に取り組む姿勢（学習の工夫と、粘り強く学習に取り組む姿勢の不足に対する手立て）

4 学校全体の授業改善の視点

・個別最適な支援（特にD 層） ・対話的な学習の充実 ・生徒自身の学習への取組	* 基礎・基本的内容を確実に定着させる。 * 考えたこと、理解したことなどを自分の言葉で説明し、理解を深めさせる。 * 学習動機をもち、学習を自ら工夫し、最後まで粘り強く取り組ませる。
---	--

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	数学	評価	理科	評価	音楽	評価	美術	評価	保健体育	評価	技術・家庭	評価	外国語	評価	道徳	評価
1 学年	課題に沿った様々な学習形態を用い、自分の考えや意見を伝え合い、考えを深め合う機会を設ける。支援の必要な生徒には、課題に沿った助言を行い、発想のきっかけとする。		地理の地域比較と資料読解を軸に活動を設計し、ミニテストや振り返りで理解度を確認、評価規準を明確にして公正評価を徹底する。		習熟度や問題に応じて多様な学習形態を取り入れ、自らの考えを深め、表現する力を身につけさせる。		学習事項を日常での現象と結びつけて考え、学んだ知識を生活に活かしているかを振り返る。		表現活動の中で、具体的な表現方法やその表現に至る考え方を自分の言葉で表し、他の生徒と共有し、自分の表現の改善に生かせるようにする。		試行錯誤を重ねて作品を制作し、発見したことや制作の意図を交換し見方を深め、次の表現に生かせるようにする。		集団行動を身に付け、基礎体力の向上を目指す。各種目の基本的な技術を身に付ける。		【技術】身近な問題を発見し、ものづくりを通して課題解決に取り組ませる。 【家庭】小学校で習ったことから復習しながら知識技能を定着を図る。		知識分野の基礎基本の定着を目指しながら、発表などの言語活動を通して表現する力を養う。		今までの自分とこれからの自分を意識させて振り返りを書かせるようにする。	
2 学年	基礎的な知識である文法や漢字の学習を積み重ねるとともに読書に親しみ、語彙力をつける。		視覚的な教材を用いたり興味や身近な話題などから学習内容へつなげるなどの工夫やグループ活動を取り入れることで、他者との意見を共有することで考えや理解を深める実践を行う		習熟度別授業を活かし本時のねらいに応じた適用題を準備し、学習内容の確実な定着を図る。		観察・実験の授業を通した課題への取り組みや、基礎知識を身につけさせる。		表現活動の中で、具体的な表現方法やその表現に至る考え方を、他の生徒と共有する中で更に良い表現方法を学び合い実践していく取り組みを行う。		構想段階や制作途中で意見交換の場を設け、見通しをもって課題に取り組み、根気強く完成させる経験を増やす。		基本的な技能の習得をしつつ、様々な体力を高めるための運動を実践する。		【技術】世の中でのテクノロジーに目を向けて、トライアル&エラーで課題解決のために粘り強く取り組ませる。 【家庭】映像授業や現物を見たり触れたりしながら想像し生活に取り入れ工夫する力を付ける。		英語の文法や語彙をただ理解させるだけではなく、それを用いて考えさせる指導を行う。		他者と意見を共有し、多様な考え方への理解を深め、よりよい自分やよりよい社会について考えられるようにする。	
3 学年	各段落における中心となる部分と付加的な部分を明確にし、まとめることで、要約した文章を書くことを重点的に指導していく。		歴史の因果整理と公民の現代課題を結ぶ授業を設計。資料活用と記述で理解を可視化。評価基準を明確にして公正評価を徹底する。		習熟度に応じた課題に取り組ませ、学習内容の定着を図る。		実験観察を中心に課題に取り組み、話し合い活動を含めた考察を行い、学習記録を記入し思考過程を振り返る。		表現活動の中で、具体的な表現方法やその表現に至る考え方を他者や資料等を活用して深め良い表現につなげ、実践する力を高める。		美術のもつ社会的な役割や歴史、日本文化の特性にも目を向けた活動を増やす。		基本的な技能を習得し、試合で実践できるようにする。		【技術】社会に必要なシステムを考え、最適化された提案をすることができるように取り組ませる。 【家庭】学び合いの時間を作り、プリントや振り返りのカードなどを有効に使い必要に応じて個々にアドバイスをしていく。		単元を見通して、評価基準を提示することにより、学習のプロセスを考え、適切に学習を調整させる。		多様な考えを授業内で共有し、よりよい社会や自己実現に向けて、道徳的実践意欲や態度を養う。	

【授業改善推進プランの活用法】
①「1 学校として目指す授業」を設定する。 ※学校経営方針との関連を確認すること。
②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 生徒の現状」に、まとめる。
③「2 生徒の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 生徒の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
④「3 生徒の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → <u>教育指導課へ提出する。</u>
⑥12月末に実施状況の評価し、3 学期以降の指導に生かす。 評価 ◎...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施